

アメリカ軍のイラン核施設への空爆糾弾！狂気の軍事行動・戦闘行為を弾劾する！
イラン・ガザ・ウクライナ・スーダン・ミャンマー・イエメン、全ての戦争を直ちに止めよ！

6月22日、アメリカのトランプ大統領は「イランの3つの核施設を攻撃し成功した」と発表した。この攻撃には地下貫通爆弾「バンカーバスター」の中でも最大級の「GBU-57」が実践で初めて使用されたとも報じられている。この攻撃について、イスラエルのネタニエフ首相は、トランプ大統領を称賛し感謝を表明したと報じられている。

我々、JR東海労は「イランの核開発を阻止する」ことを口実に、一方的にイスラエルに加担したアメリカの軍事行動を断固として弾劾する。

一方、イランはアメリカの攻撃を受けて、弾道ミサイルでイスラエルの最大都市テルアビブを攻撃、市民が死傷する被害が出ていることも報道されている。

6月12日、イスラエルによる「イランの核脅威を封じるため」を口実にした先制攻撃に端を発した今次戦争は、どんな理由をつけようとも正当化することなどできない。また「世界一のテロ支援国家による核の脅威を阻止する」ことを理由にしたアメリカのイランへの攻撃も断じて正当化できない。

6月15～17日、カナダでG7サミットが開催された。重要鉱物や人工知能（AI）など6つの分野に関する共同声明に合意しつつ、中東での「緊張緩和を求める声明」も発表された。しかし、トランプ大統領はこの声明が確認された初日の議論を終えると、イラン対策でとっとと帰国した。その1週間後、イランの核施設への攻撃は実行された。G7サミットによる中東での「緊張緩和を求める声明」は、このアメリカの攻撃を容認する役割を果たしたと言える。そういう意味で、G7に出席した石破首相・日本をはじめとしたサミット参加国の首脳も同罪と言わなければならない。

イスラエルは、ガザに対する筆舌に尽くし難い攻撃を今も続けていて、2023年10月以降の死傷者は5万5千人を超えている。さらに、シリアへも本年5月31日、ミサイル攻撃を行った。

中東情勢は限りなく緊迫しており予断を許さない。イランの最高指導者ハメネイ氏は、アメリカからの攻撃があった場合「取り返しのつかない重大な結果をもたらす」と声明を発表していて、軍事大国であるイランの報復攻撃次第では、とんでもない事態になることも予想される。

世界は今、まさに緊張の頂点に達している。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イスラエルによるガザへの大虐殺殲滅作戦、イエメン内戦、ミャンマー内戦、スーダン紛争、そしてアメリカが参戦したイランとの全面戦争への様相は、多くの死傷者を出し泥沼化の様相である。そして、被害に遭っているのは自らの国民である。自らの国民を犠牲にしてまでも戦争行為に走る権力者に100%正義はない。

我々JR東海労は、本日6月23日、沖縄慰霊の日である今日、世界の権力者による理不尽な軍事行動、戦争行為に反対することを表明する。

2025年6月23日

J R 東 海 労 働 組 合 中 央 本 部
J R 東 海 労 働 組 合 新 幹 線 地 方 本 部
J R 東 海 労 働 組 合 静 岡 地 方 本 部
J R 東 海 労 働 組 合 名 古 屋 地 方 本 部
J R 東 海 労 働 組 合 新 幹 線 関 西 地 方 本 部